

社会福祉法人晋栄福祉会

「安心」を提供する 地域の新たな拠点に

ナーシングホーム智鳥、その足跡とリニューアルに向けた思い

ナーシングホーム智鳥 総合施設長 **大北 淳**さん

特別養護老人ホーム「ナーシングホーム智鳥」(大阪府門真市)が今、法人発祥の地で建て替え工事を進めている。開所予定は来年新春。従来型から全室個室ユニット型(以下、ユニット型)の施設に生まれ変わる。計画を指揮する大北淳総合施設長に、新施設への抱負をうかがった。(文/和田依子 写真/岩佐俊英)

「できることは先駆的にやる」 は30年前から

——こちらは法人で最初の高齢者介護施設とうかがいました。

おっしゃる通りです。私どもの法人は1979(昭和54)年、智鳥保育園(門真市)の運営から出発しました。1993(平成5)年に法人として2番目に立ち上げたのが「ナーシングホーム智鳥」。法人初の特別養護老人ホームです。現理事長、濱田和則が初代施設長に就任しました。

——設立当時の施設の様子を教えてください。

介護保険制度の導入(2000年)前でしたが、先駆的なことをしていました。

施設長に就任前、濱田理事長は別の法人で介助員、生活指導員、ソーシャルワーカー等をしておられました。何年も寝たきりだった高齢者を施設にお連れし、お風呂に入れてさしあげるなど、ご利用者のためになることなら率先してさ

れたそうです。ですから、こちらの現場でも「既存のサービスではないからできないというのではなく、できるようにしていきなさい」と職員に指導され、私たちが常々それを実践できるよう努めました。

私は開所5年目に介護職として入職し、後に生活相談員を経験しました。施設では当時から「利用者本位のサービス」が徹底されていました。相談業務も受け身ではありません。ご利用者の希望の時間に合わせ、こちらから出向いて行く。理事長が掲げる介護部門の「7つの運営方針」(*1)の原点は、この施設で生まれたと考えています。

——どのような雰囲気職場でしたか。

入職当時の職場は20代の若い職員が中心でした。男性職員はまだ少なかったです。介護保険制度が施行される前の措置制度の時代で、市町村が高齢者の利用案内をしている状況でした。当時は一



抱負を語る大北淳総合施設長

介護職員だったということもあって、現場のご利用者にとのよう快適なケアをしてさしあげられるかを主に考えていました。介護保険制度とケアプランという考え方が入ってからは、ケアプランの根拠に基づいたケアができるようになりました。

——現在、府内で多くの関連施設を運営されています。

門真市を中心に、特別養護老人ホーム、ショートステイ、小規模多機能型居宅介護、デイサービス、訪問介護、居宅介護支援事業、地域包括支援センターなど、8つの拠点を展開しています。ナーシングホーム智鳥はこれらと連携するハブ拠点。大阪エリアの介護の中心拠点となります。新しい施設になっても、この役割は変わりません。

設備より積極的な情報発信を

——今回、建て替えを決めた理由を教えてください。

建物の老朽化というもありますが、法人の施設の中でここだけが従来型特養だということが、大きな理由です。現在は4人部屋が中心でご利用者のプライベートな空間がほとんどありません。ユニット型にすれば、プライバシーを確保した生活を望まれるご利用者にも対応できます。

——どのような規模、設備の施設になりますか。

特養80人、ショートステイ20人。100人定員のユニット型施設になります。今より40人の定員増です。設備面では、法人内の他施設にあるものは完備します。たとえば「ノーリフティングポリシーに基づくケアの徹底や必要機器の配備、見守りシステムの導入等」が挙げられます。各施設における反省点などをできるだけ取り入れて、設計をお願いしています。さらに災害に備える備蓄スペースや、地域と交流を深める交流スペースも設けます。

——最先端の施設。期待が高まりますね。

ご利用者の立場から見ると、そうとは言いきれません。今や全国の特養の半数以上はユニット型とされています(*2)。見守りシステムやノーリフティングは職員にもご利用者にも優しい環境ですが、それはあくまでもシステム上のこと。ご利用者がいいサービスを受けられるかどうかは別の話です。見守りシステムは「職員が楽になるだけでは？」と言われるかもしれません。利用料金の問題や、待機状況の問題等で、「入りたいと思っても入れない」という方も出てくる。それはご利用者の本意ではないはずですが。

——では、どのような取り組みに力を入れますか。

施設からの情報発信です。今、ホームページやInstagramで、許可をいただいたご利用者の様子を定期的に発信しています。ご家族と、入居されているご利用者との間の密なコミュニケーションをサポートしています。イベントや食事

など、ご利用者が施設の生活を楽しんでおられる姿を見られるのは、ご家族にとってもうれしいものだと思います。また、他法人との差別化にもつながります。即効性はないかもしれませんが、口コミなどで少しずつ私たちの施設の良さを分かってもらえるのではないのでしょうか。

利用者目線を大切にし、 安心できる拠点に

——ナーシングホーム智鳥以外の施設も経験されたそうですね。

私はここ以外で3か所の特別養護老人ホームに異動しました。今振り返ると、大変な事もありましたが、いい経験をさせて頂きました。

宝塚ちどり(兵庫県宝塚市)では、法人の地盤がない地域だったので、知っていただくことに苦労しました。公民館など地域住民が集まる場所に訪問する機会を民生委員さんに紹介してもらい、そこに何度も足を運び、施設や事業のことを周知していきました。中山ちどり(兵庫県宝塚市)では、地域の自治会組織がしっかりしていました。会合には私たちも参加し、意見を求められました。「地域と共に生きる」とはこういうふうにするのかなど、勉強になりました。高山ちどり(奈良県生駒市)では、デイサービスに「手作り体験」を取り入れて、ご利用者を増やしました。新しい施設では、こうしたさまざまな経験を活かしていきます。

——2017(平成29)年からこちらの施設長に。施設の方針を教えてください。

「私や家族が利用したい施設を目指す」という方針を掲げています。そもそも私がこの仕事に就いたのは、「自分もいずれ年を重ねる。その時に使いたいと思えるサービスがあるようになってほしい。そのために頑張ろう」という気持ちがあったからです。施設の方針を表明する際に、難しいことを言うより「自分ならどう思



ナーシングホーム智鳥(左)の隣接地で進む、新築工事

う? 自分の家族ならどうしてほしい?』ということをつきつめていこう」と自身の初心を思い出しました。職員にはご利用者の目線に立つことを大事にしてほしいと伝えています。

——今後、どのような施設が求められるのでしょうか。

社会は私どものような施設に対して、「安心感」を求めています。何か困ったことがあれば、「あそこにさえ相談すれば安心。きっと力になってくれる」という場所です。そのため、新たな施設には、地域の人たちが気軽に集い、互いにつながりを深められるシステムを備えた交流スペースが是非とも必要だと、かねがね思っていました。

門真市は事業所同士の連携が強い地域です。特に福祉関連事業所などが組織の垣根を越えて協力し合っている「ゆめ伴プロジェクト in 門真」(*3)という活動があります。ナーシングホーム智鳥が、それらの活動拠点の一つとして、地域貢献を果たしつつ、人々の集いの場となり「何かあったら智鳥さんに行こう」が合言葉になるような施設にしていきたいことが私の目標です。

*1:「7つの運営方針」の詳細は、晋栄福祉会のホームページを参照。

*2:「令和2年介護サービス施設・事業所調査」

(令和2年10月1日 厚生労働省)より

*3:門真市介護保険サービス事業者連絡会と門真市社会福祉協議会、くすのき広域連合門真支所、地域活動団体が連携し、2018年に発足した活動。「認知症になっても夢をかえの道のりを、まち全体で伴走していこう」を目的にイベント等を企画している。



ナーシングホーム智鳥建替え オープニングスタッフ大募集

定員拡大により、介護スタッフ大募集中!!
IoT導入の最新施設で、スキルアップを図りませんか?

社会福祉法人晋栄福祉会 ナーシングホーム智鳥

〒571-0026 大阪府門真市北島町12-3 TEL:072-881-8201 FAX:072-881-8115

アクセス 大阪メトロ長堀鶴見緑地線 門真南駅下車徒歩約15分

お申し込み お電話またはHPより www.chidori.or.jp

令和5年新春竣工(予定)!!